

2018年10月24日(水)

有明新報 3面

介護者の負担軽減に

野口さん 学会で奨励賞

電気回路使い尿量測定

有明高専

大牟田市東萩尾町、有明工業高等専門学校の寄附講座「人工知能・ビジネス講座(木村情報技術)特命助教、野口卓朗さん(28)が、ぼうちょう内の尿量の変化を測定する回路について論文にまとめ、電気学会電子・情報・システム部門の研究奨励賞を受賞した。今後の研究で、失禁の予防などに役立つ可能性もあり、「将来的には介護者の負担軽減につながれば」と展望を話した。

受賞した論文は「生体インピーダンス計測に適した簡易型微小位相差計測回路の検討」。野口さんが佐賀大学大学院生時代から続けている回路研究を応用したもので、昨年1月に大牟田市で開催された電子回路研究会で発表している。

ぼうちょうの上に四つの電極を貼り、微小な電流を流すことで電極間の電圧のず

れを測定。通常の状態と尿がたまり、ぼうちょうが大きくなった時の変化を読み取った。野口さんは自身の体で実験し、1回の実験で、3時間動かず、データを集めたという。

9月に北海道大学で表彰式が行われる予定だったが、北海道胆振東部地震の影響で中止となっていた。

野口さんは「データを集めることで病理診断に役立つかもしれない。実用化を目指して今後も研究を続けていきたい」と抱負を話した。



受賞を機にさらなる研究への意欲を話す野口さん

(矢野 大輔)